第２回紀南地域高等学校活性化推進協議会

配　付　資　料

○ 令和５年度紀南地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・・・Ｐ １

○【資料１】令和５年度第１回紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・ Ｐ ２

○【資料２】紀南地域新高等学校について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ ４

○【資料３】紀南地域新高等学校概要案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ ６

○【資料４】新校のワーキング会議における検討状況について・・・・・・・・・・Ｐ ７

○【資料５】紀南地域新高等学校の校名選定について・・・・・・・・・・・・・・Ｐ ９

○【資料６】紀南高等学校における通級による指導について・・・・・・・・・・・P11

○【資料７】三重大学共創の場形成支援プログラムと高校の連携について・・・・ P13

令和５年度　紀南地域高等学校活性化推進協議会　委員名簿

Ｎｏ	区分	所属及び名前
1	学識経験者	三重大学教育学部　教授　　平山　大輔
2	地域有識者	熊野商工会議所　青年部幹事　　森本　健一
3		文恵丸水産　代表　　長山　行文
4		紀宝町商工会　理事　　産屋敷　道博
5	市町教育委員会	熊野市教育委員会　教育長　　倉本　勝也
6		御浜町教育委員会　教育長　　辻本　誠一
7		紀宝町教育委員会　教育長　　西　　章
8	小中学校ＰＴＡ代表	紀南ＰＴＡ連合会　会長　　中澤　武
9		紀南ＰＴＡ連合会　進路研究委員長　　和田　泰史
10	高等学校ＰＴＡ代表	県立木本高等学校ＰＴＡ　会長　　道前　涼太
11		県立紀南高等学校ＰＴＡ　会長　　中嶋　悦雄
12	同窓会・地域代表	県立木本高等学校同窓会　会長　　森岡　忠雄
13		県立紀南高等学校　学校運営協議会　会長　　山本 章彦
14	小中学校長代表	御浜町立尾呂志学園小・中学校　校長　　髙田　有治
15		紀宝町立相野谷中学校　校長　　矢田　哲也
16	小中学校教員代表	御浜町立御浜小学校　教諭　　木下　雄介
17		御浜町立阿田和中学校　教諭　　市村　　一
18	県立高等学校長	県立木本高等学校　校長　　福田　英成
19		県立紀南高等学校　校長　　辻　　孝明
20	県立高等学校教員代表	県立紀南高等学校　教諭　　込谷　徳隆

【資料１】

令和５年度第１回紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要

１　日時　　令和５年７月２１日（金）19 時 00 分から 21 時 00 分まで
２　場所　　三重県熊野庁舎
３　概要

令和７年度に木本高校と紀南高校を統合し、木本校舎を４学級、紀南校舎を１学級として開校する新高等学校について、両校の校長をリーダーとする紀南地域新高等学校ワーキング会議における検討状況を共有し、新校のコンセプトなどについて協議を行いました。また、紀南地域新高等学校校名選定委員会の設置にあたり、委員会で大切にしたい考え方などについても協議を行いました。

主な意見は次のとおりです。

≪新校のコンセプトについて≫

○　不登校を経験した生徒や、特別な支援が必要な生徒が増えていることから、新校においても多様な生徒一人ひとりに応じた、きめ細かな指導を引き続き行ってほしい。

○　新校の総合学科においては、両校舎が一体となってきめ細かで丁寧な指導を行い、魅力化を図っていきたいと考えている。

○　両校舎の総合学科では、地域の産業について学ぶことができる授業をもっと実施してほしい。また、地域おこし協力隊との交流など、地域の魅力をもっと知ってもらうような取組も必要ではないか。

○　昨年度実施したアンケートからも、中学生は高校を選択する際に、多様な進路に応じた学習ができることを重視している。新校で取得できる資格や、想定される進路先を具体的に提示してほしい。

○　紀南高校のコミュニティスクールとしての成果を考えると、新校も地域と連携した教育を行う学校として、両校舎ともコミュニティスクールを導入するべきではないか。

○　令和 12 年度には、紀南地域の中学校卒業者数がさらに減少することが見込まれるため、地域の中学生に選んでもらえるような新校の魅力づくりを、令和７年度からの５年間で行っていく必要がある。そのためには、少人数学級の実施や新校の校舎間を移動するバスの整備など、行政からの支援も必要ではないか。

○　紀南校舎は１学級となり、紀南校舎に通いたいのに木本校舎に通わざるを得ない生徒が出ることも想定されるため、交通費の補助等について検討してほしい。

○　行きたい校舎に行けない、学びたい系列で学べないという状況にならないためにも、総合学科については、くくり募集とするなど、希望する校舎に入学できるような仕組みを考えてほしい。

○　くくり募集については、ワーキング会議でも検討しているが、年度によって校舎間の人数に偏りが生じる可能性があり、生徒の学習環境の維持などの視点から慎重に考える必要がある。

≪校名選定委員会について≫

○　校名を選ぶ際には、子どもたちの意見も取り入れる工夫をしてはどうか。

○　新しい学校として出発するため、新しい校名にしてほしい。

紀南地域新高等学校について

１　設置の概要（令和５年３月公表済）

木本高等学校と紀南高等学校を統合し、校舎制の新しい高等学校を令和７年４月に設置します。

校舎名	設置場所	設置する課程および学科・学級数
木本校舎	木本高等学校 （熊野市木本 1101-4）	【全日制】 普通科　　３学級 総合学科　１学級 【定時制】 普通科　　１学級
紀南校舎	紀南高等学校 （南牟婁郡御浜町阿田和 1960）	【全日制】 総合学科　１学級

２　めざす学校像

～「美し国三重・東紀州の人づくり」の推進～

持続可能な社会の一員として、ふるさとを想い、未来に希望を持って幸福を実現する人材を地域とともに育てる「開かれた学校」

３　育みたい資質・能力

・自己肯定感を高め、夢や目標の実現に向けて主体的に学び続ける力（自立）
・人との出会い・つながりを大切にし、互いのよさを生かして協力・協働する力（共生）
・自分の可能性を信じ、何事にも積極的に挑戦し未来を切り拓く力（創造）

４　特色ある学び

～仲間とつながる　地域とつながる　全国・世界とつながる～

（１）２校舎が一体となった学び

・それぞれの校舎の独自性を大切にしつつ、校舎間の連携を強化して、より幅広い教育活動を行います。
・体育祭、文化祭、学習成果発表会などの行事を両校舎合同で開催します。
・校舎間を移動するバスを活用し、学習活動や部活動など、両校舎が合同で行う活動をサポートします。（予定）

（２）地域と連携した学びや活動

・「防災・減災・復旧・復興」がキーワードの防災教育をはじめ、地域社会の課題解決をめざした探究活動「東紀州未来学（仮称）」を実施します。
・地域との連携や外部指導員の活用により部活動を活性化します。
・コミュニティ・スクールの仕組みにより、地域と共に学びを支援します。

５　各課程・学科の特色

（１）全日制・普通科（木本校舎３学級）

・普通教科を中心として確かな学力を育成し、「夢をかなえる力」を育みます。

・「選抜コース」では、２年次から文系・理系に分かれた発展的な学習を行い、主体的に学ぶ力を育成します。特に、国公立大学や難関私立大学への進学希望を実現できるよう支援します。

・「普通コース」では、大学や短大、看護系をはじめとする専門学校などへの進学に対応した教育課程を編成し、公務員など就職も含めた幅広い進路希望を実現できるよう支援します。

（２）全日制・総合学科（木本校舎１学級、紀南校舎１学級）

・木本校舎に「リベラルアーツ」と「情報ビジネス」の２系列、紀南校舎に「地域デザイン」と「産業マイスター」の２系列、両校舎合わせて４系列を設置し、多彩な系列の学びで、進学から就職まで幅広い進路希望を実現できるよう支援します。

・系列共通の科目を含めた幅広い選択科目を設置し、個に応じたきめ細かな教育を実現します。

・生徒の出前授業などにより地域交流を推進するとともに、長期にわたる就労体験（インターンシップ）を実施するなど、体験型の学習を充実します。

・「リベラルアーツ系列」では、国語、数学、英語、スポーツ・芸術系科目などさまざまな選択科目を設置し、幅広い教養を育みます。

・「情報ビジネス系列」では、パソコンや会計系の資格取得につながる科目を設置し、情報やビジネスに関わる専門性を高めます。

・「地域デザイン系列」では、地域創造に関する科目を設置し、地域への理解を深め、地域の発展に貢献できる力を育みます。

・「産業マイスター系列」では、ビジネスや医療・福祉に関わる科目を設置し、地域産業などの担い手となる力を育みます。

（３）定時制・普通科（木本校舎１学級）

・社会生活と学習を両立させながら、自分のペースで「なりたい自分」を実現します。

・少人数の学習環境での学び直しにより、社会生活で必要となる学力を育成します。

６　今後の進め方

・校名については、「紀南地域新高等学校校名選定委員会」を設置し、校名案を広く公募したうえで、校名を選定する予定です。

・その他の事項については、「紀南地域新高等学校ワーキング会議」を中心として、引き続き検討を進めます。

【資料３】R5.9.4 教育委員会定例会資料

紀南地域新高等学校　～「美し国三重・東紀州の人づくり」の推進 ～（案）

めざす学校像

持続可能な社会の一員として、ふるさとを想い、未来に希望を持って
幸福を実現する人材を地域とともに育てる「開かれた学校」

育みたい資質・能力

○自己肯定感を高め、夢や目標の実現に向けて主体的に学び続ける力（自立）
○人との出会い・つながりを大切にし、互いのよさを生かして協力・協働する力（共生）
○自分の可能性を信じ、何事にも積極的に挑戦し未来を切り拓く力(創造)

学びのコンセプト

仲間とつながる　地域とつながる　全国・世界とつながる

特色ある学び

◆２校舎の独自性を大切にしつつ、統合により連携を強化して学びを充実
◆幅広い選択科目を設置し、個に応じたきめ細かな教育を実現
◆「防災・減災・復旧・復興」がキーワードの防災教育をはじめ、地域社会の課題解決をめざした探究活動『東紀州未来学（仮称）』を実施

≪≪≪「つながる」学びの推進≫≫≫

○２校舎が一体となった学び

◆体育祭・文化祭・学習成果発表会等の行事を両校舎で合同開催
◆移動用バスで両校舎の合同活動をサポート（予定）

○地域と連携した学びや活動

◆地域との連携や外部指導員の活用により部活動を活性化
◆コミュニティ・スクールの仕組みにより、地域と共に学びを支援

≪≪≪生徒の進路希望の実現に向けて≫≫≫

○普通科選抜コース

◆国公立大学・難関私立大学合格に向けて、徹底サポート

○普通科普通コース

◆大学・短大・看護専門学校・公務員・就職等、幅広い希望に対応

○総合学科

◆多彩な系列の学びで、進学から就職まで、幅広い希望に対応

≪≪≪≪≪これまでの２校舎それぞれの歴史や取組を生かした特色ある学び≫≫≫≫≫

学びの選択肢の充実（設置予定の科目群）

木本校舎（熊野市）

普通科（全日制）３学級

◆国語・数学・英語等の共通教科を中心として、確かな学力などの「夢をかなえる力」を育成

選抜コース

◆2年次から、文系・理系に分かれた発展的な学習で、主体的に学ぶ力を育成

普通コース

◆文系科目を中心に、一部の理系科目も選択でき、幅広い学びで自己のキャリアを形成

普通科（定時制）１学級

◆仕事や社会生活と学習を両立
◆一人ひとりのペースで「なりたい自分」を実現

定時制普通科

◆少人数での学び直しで「社会生活で必要な学力」を育成

総合学科（全日制）１学級・・・（連携）・・・１学級

◆系列ごとの科目と、系列共通の選択科目の設置
◆生徒の出前授業など地域交流を推進

リベラルアーツ系列

◆国語・数学・英語等の共通教科やスポーツ・芸術系科目等から幅広く選択

情報ビジネス系列

◆パソコン・会計系の資格取得等につながる、実社会で役立つ科目を選択

紀南校舎（御浜町）

◆長期にわたる就労体験（インターンシップ）を実施
◆地域での体験型の授業が充実

地域デザイン系列

◆地域創造・文系科目や共通選択科目等から幅広く選択

産業マイスター系列

◆ビジネス・医療福祉系の科目等、地域産業に関わる科目を選択

【資料４】

新校のワーキング会議における検討状況（８月～１０月）について

１　木本校舎普通科のコース名の変更について

・「選抜コース」について、名称変更の検討を進めている。

２　総合学科の学びについて

・各系列において開設する科目や学習内容など教育課程の編成について検討を進めている。

３　体験型学習について

・木本高校における生徒による小学校への出前授業などについて、引き続き実施することとし、交流校や実施科目の拡大など、取組の深化に向けた検討を進めている。

・紀南高校における長期にわたる就労体験（インターンシップ）について、引き続き実施することとし、生徒の希望に応じた職種の受入事業所の拡大など、検討を進めている。

４　２校舎間の連携、交流について

・校舎間を移動するバスは、開校に先駆け令和６年度から運行できるよう、県教育委員会が予算要望を行っている。

・予算確保の状況に応じ、平日も含めた部活動の合同練習への活用について検討を進めている。

・令和７年度から２校舎間で連携して進める学習成果発表会の合同開催に取り組むこととし、開校前の令和５、６年度における実施についても検討を進めている。

・その他、両校舎が一体となって行う学びについて検討を進めている。

５　制服について

・新校としての一体感が得られることや、性の多様性を尊重する観点、また総合的な探究の時間等での活動のしやすさも考慮し、新しい制服への変更について検討を進めている。

・新しい制服のデザイン等の検討にあたっては、中学生へのアンケートを実施し、子どもたちの意見を参考にできるよう検討を進めている。

・制服の変更については、家計への負担ができるだけ小さくなるよう検討を進めている。

６　入学者選抜について

・紀南新校における学びについては、学校が地域からの意見も聴取するなどして検討し、９月４日（月）に公表した。

・２校舎に配置する総合学科については、令和４年度に紀南地域協議会が実施したアンケート結果や協議会での意見、地域の声を参考に、この地域の子どもたちにできる限り多様な学びを提供できるよう、校舎ごとに異なる系列を設定することとしている。

・また、これまでの紀南高校における多様な教育ニーズに応じた丁寧な学びについては、紀南校舎と木本校舎の双方が継承できるよう検討を進めている。

・こうした方向性のもと、総合学科の学びをより具体的に検討するため、上記のアンケート結果もふまえ、新校の入学者選抜について整理した。

・新校では、それぞれの校舎における全日制普通科、総合学科、定時制の学びを充実させて活性化することで、中学生に主体的な進路選択を促し、夢や希望を抱きながら高校に進学してもらいたい。

・２校舎に配置する総合学科については、どちらの校舎においても、系列の選択に加え、自由に選択できる科目もできるだけ設け、入学後も自身の将来に向けて考えさせる機会を確保したい。

・社会性や人間性、コミュニケーション能力、学びに向かう力などは、校舎間や他校の生徒との交流、地域の方との関わりを交えながら、各校舎の日々の教育活動を基本として育んでいきたい。

・これらのことから、いずれの校舎でも、各課程や学科の活性化を推進するとともに、入学前や入学後における学びの選択肢を提供し、日々の学校生活の中で社会性や人間性をより育めるよう、一定人数の中で活動する機会を確保できる校舎別の募集を基本とする方向で整理している。

・校舎別の募集

木本校舎	全日制普通科	１２０名（３クラス）
	全日制総合学科	４０名（１クラス）
	定時制普通科	４０名（１クラス）
紀南校舎	全日制総合学科	４０名（１クラス）

【参考】令和４年度実施アンケートより

・入学する高校に期待する教育の設問において、生徒の回答は多い順に、「自分の将来を選択する力を育てる教育」(56.3%)、「社会性や協調性、コミュニケーション能力を育てる教育」(29.6%)、「自ら学び続ける力を育てる教育」(26.3%) であった。

・同じく、保護者においては多い順に、「社会性や協調性、コミュニケーション能力を育てる教育」(42.2%)、「自分の将来を選択する力を育てる教育」(41.0%)、「自ら学び続ける力を育てる教育」(38.1%) であった。

【資料５】

紀南地域新高等学校の校名選定について

新校の校名については、県教育委員会が設置した「紀南地域新高等学校校名選定委員会」において、検討を進めています。

≪第１回紀南地域新高等学校校名選定委員会の概要≫

１　日時　　令和５年９月２１日（木）19 時 05 分から 21 時 15 分まで
２　場所　　熊野市文化交流センター
３　概要

令和７年度に開校する紀南地域新高等学校について、校名選定の進め方や選定にあたり委員会として大切にしたい考え方、子どもの意見聴取などについて協議を行いました。

各協議事項の概要は、以下のとおりです。

（１）校名選定の進め方について

委員会を３回開催し、県教育委員会に提案する校名候補（３案程度）を選定することとなりました。

（２）校名選定の考え方について

基本方針や委員会として大切にしたい思いや願いについて協議し、第２回委員会であらためて整理することとなりました。主な意見は次のとおりです。

○　「県内や近隣府県の高等学校と区別しにくい校名は避ける」とあるが、近隣府県とはどのような範囲を表すのか。
⇒（事務局）県内に限らず生活圏内によく似た校名の学校ができることで混乱が生じないようにという意図であるが、範囲が明確でないため、募集要項からは「近隣府県」という文言は削除することとしたい。
○　これから高校に入学する子どもたちが、自分の未来がここからスタートするというような夢や希望が感じられる校名がよい。
○　子どもたちがわくわくし、未来を描くことができる校名がよい。
○　この地域の歴史や文化を大切にした校名がよい。
○　自然が豊かなこの地域の美しい景観を盛り込んだ校名がよい。
○　常に感謝の気持ちを持つという思いが込められた校名はどうか。
○　出会いを大切にする、感謝の気持ちを持つなど、社会に出てからも大切にしたいことが込められた校名にしたい。
○　卒業後に子どもたちになってほしい姿を表すような校名にしたい。
○　両校の卒業生の母校に対する思いに応えられるような校名がよい。
○　これまでの両校のことを思い起こさせるような、なおかつ新たな誕生を感じられる校名がよい。

○　長く親しまれるよう普遍性があり、新校に関わる多くの人が関係性を感じられる校名がよい。
○　例えば、新校のコンセプトにある「つながる」のように、２校が１つとなったことのよさや校舎制のメリットが分かるような校名がよい。
○　若い世代の心をつかむように、言葉のイメージや音の響き、文字のインパクトも大切にしたい。
○　子どもたちの思いや願いも聞いて校名を決めたい。

（３）子どもの意見聴取について
　こども基本法の趣旨をふまえ、子どもたちが校名の応募に加え、選定過程にも参加する機会を設けることとしました。
　選定過程への参加方法は、校名案に対する投票によるものとし、対象とする児童生徒や実施方法、投票結果の取扱い等については、第２回委員会で協議することとなりました。

（４）校名案の募集要項について
　募集要項については、委員からの意見を受けて一部修正を加え、10 月上旬に公表することとなりました。主な意見は次のとおりです

○　協議された基本方針や委員会として大切にしたい考え方を、募集要項に反映させてはどうか。
○　校舎名は、新校の概要案のとおり「木本校舎」、「紀南校舎」とするのか。
　⇒（事務局）現時点ではそのように考えている。
○　子どもからの応募かどうか把握できるように、属性を聞く項目を設けてはどうか。
○　子どもたちへは教室掲示ではなく、一人ひとりにプリントを配付し、趣旨を丁寧に説明してほしい。
○　自分たちに関わることを自分たちで決める機会であるので、ぜひ参画するよう促してもらいたい。
○　子どもたちへ丁寧に周知する一方で、地域の方への広報が弱くなることも考えられるが、どのように周知していくのか。
　⇒（事務局）県の庁舎や各市町の役場等を通じて周知を図るとともに、ＰＴＡや商工会へも協力を依頼したい。

（５）その他
　委員長から、三重県情報公開条例第７条第５号に基づき、第２回以降の委員会を非公開とすることについて提案があり、了承されました。

【資料６】

紀南高等学校における通級による指導について

本県の県立高校では、定時制課程の３校[伊勢まなび高校（Ｈ３１～)、みえ夢学園高校（Ｒ３～）北星高校（Ｒ５～）]で通級による指導を行っています。令和６年４月から紀南高校において、全日制課程では初となる通級による指導を開始できるよう準備を進めています。

「通級による指導」とは

・大部分の授業を小・中・高等学校の通常の学級で受けながら、一部、障がいに応じた特別の指導を特別な場（通級指導教室）で受ける指導形態で、障がいによる学習上または生活上の困難を改善し、または克服するため、特別支援学校学習指導要領の「自立活動」に相当する指導を行います。

・実施形態として、以下の３種類があります。

①児童生徒が在籍する学校において指導を受ける「自校通級」

②他の学校に通級し、指導を受ける「他校通級」

③通級による指導の担当教師が該当する児童生徒のいる学校に赴き、または複数の学校を巡回して指導を行う「巡回指導」

１　紀南高校における通級による指導の実施について

（１）実施形態

・自校通級

（２）指導対象

・主に発達障がい（ＬＤ（学習障がい)、ＡＤＨＤ（注意欠陥／多動性障がい)、高機能自閉症等）のある生徒

（３）対象学年

・第２学年、第３学年

（４）対象生徒の決定

・発達障がい支援員等の専門家の意見を参考にして、校内委員会等で通級による指導の対象とする生徒を決定します。

・本人・保護者と面談し意向を確認したうえで、受講生徒を決定します。

（５）教育課程

・特別支援学校学習指導要領の「自立活動」の内容を教育課程に加え、対象生徒は２単位～４単位の範囲で履修します。修得した単位数は当該生徒が卒業に必要な単位数に含めることができます。

（６）指導内容

・個別の教育支援計画および個別の指導計画を作成し、本人の特性に応じた自立活動の学習プログラムを組み立てます。

（７）実施校への支援

・実施校の教員が通級指導専門性充実検討会議（※１）に参加し、有識者等から通級による指導の対象生徒の決定や授業内容等についてアドバイスを受けます。

・特別支援学校のセンター的機能として、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが、自立活動に関する具体的な指導方法や教材・教具について、実施校の教員に紹介するなど、継続的に支援します。

※1：通級指導専門性充実検討会議：高等学校における通級による指導の実施にあたり、発達障がいや自立活動の指導に関して、実施校をサポートする会議

【構成員】
・発達障がい支援員スーパーバイザー　・大学准教授　・発達障がい支援員
・通級による指導実施校校長、担当者　・県教育委員会高校教育課担当者
・県立特別支援学校の特別支援教育コーディネーター

共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）【地域共創分野】

【資料７】

拠点名称：紀南オープンフィールド構想によるみどりのアントレプレナー共創拠点

代表機関	三重大学	**プロジェクトリーダー**	岡島　賢治 三重大学　大学院生物資源学研究科　教授
参画機関	鳥羽商船高等専門学校、京都大学、京都先端科学大学、 三重県、熊野市、御浜町、紀宝町、株式会社三祐コンサルタンツ、株式会社FIXER、株式会社クボタ、株式会社ZTV、株式会社プロキッズ、有限会社すぎもと農園、株式会社かきうち農園、株式会社オレンジアグリ、御浜土地改良区		

プロジェクトの概要

【 地域拠点ビジョン 】

本拠点では、多様な若者が三重県紀南地域に集い、紀南地域をフィールドとして学ぶオープンフィールドと、自ら描いた将来像に向けて挑戦しそれを実現させるアントレプレナー共創の場の形成を目指す。この提案におけるオープンフィールドとは、先進技術を活用しながら斬新な発想を持つ若者と、地域住民が議論を重ねてイノベーションを展開する農村社会であり、若者たちが先進技術に関わる基礎的な教育から専門教育までを学ぶことができる教育の場と、魅力的な就職先として先進技術が展開される農業の場である。また、このオープンフィールドでは、現実と仮想空間が融合しながらも人とのつながりを感じる新たな農村社会が再構築され、若者たちはその中で地域課題を解決し、自らの将来像を描いていく。

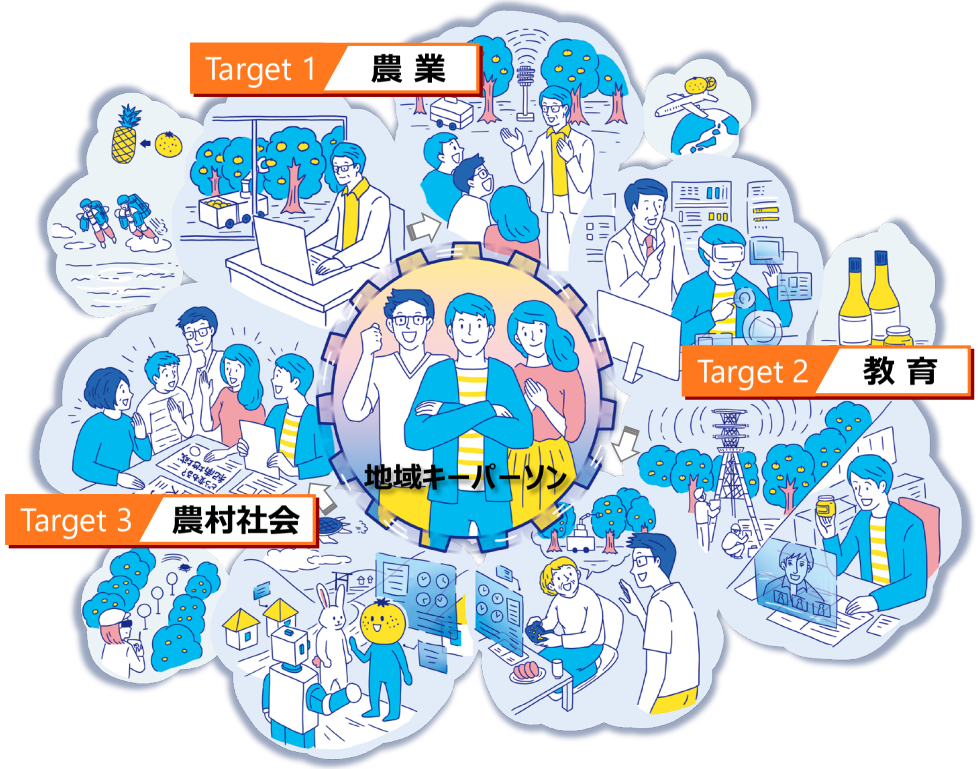
【 ビジョン実現のための３つのターゲット】

ターゲット１：常に最新技術が導入され、新たな仕事が創出され続ける開かれた農業の場

ターゲット２：開かれた紀南地域に魅力を感じ、国内外で活躍できる若者が集う教育の場

ターゲット３：将来像に向けてオープンイノベーションが展開される農村社会

紀南地域におけるオープンフィールドの自走化



紀南地域の持続可能な農業や自然環境の美しさ、歴史・文化の深みを「**みどり**」と表現し、この「みどり」に関する起業に挑もうとする地域人材を「**みどりのアントレプレナー**」と定義